

# 湯河原ロータリークラブ



## WEEKLY REPORT

### ロータリーに 輝きを

第 2547回 例会  
平成26年7月25日(金)  
天候 晴れ  
合唱 奉仕の理想  
四つのテスト

会長 神谷 一博

幹事 深澤 昌光

事務所 神奈川県足柄下郡湯河原町宮上 566 湯河原温泉観光協会内  
TEL 0465(64)1234 FAX 0465(63)1716

例会場 静岡県熱海市泉 107 ニューウェルシティ湯河原

TEL 0465(63)3721 FAX 0465(63)6401

例会日 毎週金曜日 12:30~13:30

#### 会長挨拶

先週の土曜日地区の財団セミナーに行ってきました。  
土曜の13:00~17:00時地区委員73名、対象64クラブ  
で93名、重複もありますが計160名近くの方が参加  
しました。空き席を探すのが大変な程のセミナーでした。  
セミナーの4時間の内容を発表しますと、何日も掛りそ  
うなので、徐々に発表していきます。因みに渡辺財団地  
区委員は早くから会場設営をして、最後まで撤収作業  
をおやりになり、湯河原クラブは流石と言われました。  
渡辺前会長(現、地区財団委員)有難うございました。

今更ながらですが、ロータリーとは、

「地域の人々の生活を改善したいという情熱を社会に  
役立つ活動に注いでいる、献身的な人々の世界的ネット  
ワーク。」

この文章はRI戦略計画の最初に出てくる文章ですが、  
奉仕、理念、倫理、中核的価値観、人道的とかが解る前  
に自然に受け入れられる言葉とおもいました。

明日は、前ガバナー補佐の井島さんが委員長奉仕プロ  
ジェクトセミナーに深澤幹事と勉強に行つてまいりま  
す。

ヤクーツクのアレクセイ君の受け入れ高校の件で今  
朝澤田補佐と土屋会員とで城東高校(小田原総合ビジネ  
ス高等学校)に行つてまいりました。28日月曜日に正  
式回答をもらえらると思います。皆様もそろそろロシア語  
の勉強をしておいて下さい。縄文人は北方から来たとい  
う説もあります。何かのご縁があるかもしれませんね、  
よろしくお願ひ致します。

#### 幹事報告

ガバナーより

##### 1. 青少年交換学生募集の件

締切は10月31日必着となります。志願者からの応  
募がありましたら対応のほどお願いします。

##### 2. 2015-16年度財団補助金管理セミナー開催のお知らせ

日時: 8月23日(土)13時~17時

場所: 第一相澤ビル6階「会議室」

回答期限: 8月11日(月)

##### 3. 麻薬撲滅キャンペーン啓発資材手配について

ご協力いただけるクラブは、資材の希望数をお知らせ  
願います。

##### 4. 公共イメージ委員会のヒアリングシートについて

FAXまたはメールにてご返信下さい。

##### 5. 地区米山奨学セミナー及びカウンセラー会議開催の ご案内

日時: 8月29日(金)14時~17時

場所: アイクロス湘南 7階

尚、カウンセラーのご都合がつかないときは代理の方  
の出席をお願いします。

#### 連絡事項

- 8月の例会は、1日の通常例会、8日は情報集会を  
ホテル城山で夜間例会、15日は休会、22日、29  
日の通常例会です

出席 報告	ゲスト 0名	ビジター 0名	会員 24名
	欠席 4(免除者 1名)		出席率 86.95%
	前回の修正出席率 73.91%		前々回の修正出席率 82.61%

事前メイクアップ 1名

## スマイルBOX

夫人誕生日 小松雄成君(澄代様・7/26)  
西山 敦君 京都祇園祭、山鉾巡行の見学に行ってきました

## 卓話

神宮式年遷宮について 西山 敦君  
神宮式年遷宮は、神宮（伊勢神宮）において行われる式年遷宮（定期的に行われる遷宮）である。神宮では、原則として20年ごとに、内宮（皇大神宮）・外宮（豊受大神宮）の二つの正宮の正殿、14の別宮の全ての社殿を造り替えて神座を遷す。このとき、宝殿外幣殿、鳥居、御垣、御饌殿など計65棟の殿舎のほか、装束・神宝、宇治橋なども造り替えられる。

平成17年から第62回式年遷宮の各行事が進行中し、平成25年には正遷宮（神体の渡御）が10月2日に内宮、10月5日に外宮で斎行された。式年遷宮を行うのは、萱葺屋根の掘立柱建物で正殿等が造られているためである。塗装していない白木を地面に突き刺した掘立柱は、風雨に晒されると礎石の上にある柱と比べて老朽化し易く、耐用年数が短い。そのため、一定期間後に従前の殿舎と寸分違わぬ弥生建築の殿舎が築かれる。

用材 伊勢神宮の建築のことについて

遷宮においては、1万本以上のヒノキ材が用いられる。その用材を伐りだす山は、御杣山（みそまやま）と呼ばれる。御杣山は、14世紀に行われた第34回式年遷宮までは、3回ほど周辺地域に移動したことはあるものの、すべて神路山と島路山、高倉山という内宮・外宮背後の山であった。

以後、第51回式年遷宮のみ大杉谷に戻ったものの、300年以上にわたり木曾谷を御杣山としている。

明治時代には、木曾谷を含む尾張藩の森林は国有化された。明治時代後期から大正時代にかけて、木曾の赤沢をはじめとする地域に神宮備林が設定され、樹齢200年から300年の用材の安定提供を可能とする計画的植林が行われ始めた。第二次世界大戦後、神宮備林の指定は外されたものの、以後も遷宮用材の主な供給地となっている。

神宮では、1923年（大正12年）に森林経営計画を策定し、再び正宮周辺の神路山・島路山・高倉山の三山を御杣山とすべく、1925年（大正14年）または1926年（大正15年/昭和元年）から、三山へのヒノキの植林を続けている。遷宮の用材として使用できるまでには概ね200年以上かかるため、この三山の植林から生産された用材が本格的に使用されるのは120年以上後の2120年頃となる。また、この計画は、400年後の2400年頃には、三山からの重要用材の供給も目指す遠大なものである。なお、内宮正殿の御扉木について、本来の様式通りに一枚板とするためには、樹齢900年を超える用材が必要となると試算されている。2013年（平成25年）に行われた、第62回式年遷宮では、この正宮周辺三山からの間伐材を一部に使用し、全用材の25%が賄われる。

式年遷宮の際に解体される旧殿に使用された用材は、神宮内やその摂社・末社をはじめ、全国の神社の造営等に再利用される。例えば、内宮正殿の棟持柱については宇治橋神宮側鳥居となり、さらに関の東の追分の鳥居となる習わしである。また、外宮正殿の棟持柱は宇治橋おはらい町側鳥居となりさらに桑名の七里の渡しの鳥居となる習わしである。（ウイキペディアより）

前回（平成5年）の遷宮後では、その年の北海道大地震により奥尻島の神社が火災で焼け落ちたので、内宮境内の月読宮の社殿をそのまま移築した。平成7年1月の阪神淡路大震災で倒壊した、生田神社の鳥居が宇治橋の鳥居→鈴鹿の関の鳥居に順に移築されたように、神宮のご用材は式年遷宮を経て全国で末永く活用されている。

今日は、昨平成25年に行われた遷宮行事の中8月のお白石持ち行事、および、10月2日に斎行された内宮での遷御（神様を新しい社殿にお移しする事）、10月5日の外宮での遷御の模様をDVDで視聴して頂きます。